

はだの大日堂保存会

大日堂

縁起によると聖武天皇の詔により行基上人が天平14年(743年)(奈良時代)覚王山・安明院(大日堂)を開山。天慶3年(879年)から永治元年(1140年)(平安時代)まで261年間、相模の国の国分寺であったと言われています。

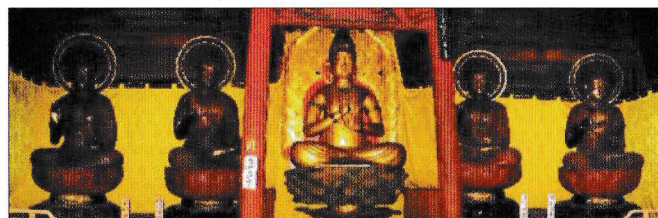
五智如来像

堂内には、本尊である五智如来像と以前は観音堂にあった聖観世音菩薩像が安置されています。

平安時代の五智如来がそろって存在する例は全国的にも少なく、また、木造・一本造りでこれだけの大きさは、平安時代作として関東のみならず、全国的にも貴重な存在です。

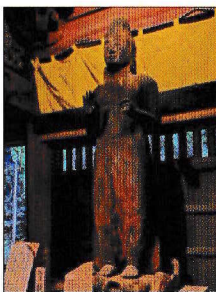
- ・大日如来(だいにちによらい) 全高 199.5 cm
- ・阿閼如来(あしゅくによらい) 全高 124.0 cm
- ・宝生如来(ほうしょうによらい) 全高 125.0 cm
- ・釈迦如来(しゃかによらい) 全高 123.3 cm
- ・阿弥陀如来(あみだによらい) 全高 124.0 cm

大日如来は神奈川県的重要文化財、その他の如来は、秦野市の重要文化財に指定されています。



聖観音菩薩像

平安初期の聖観音ですが、いたみが激しいのが残念です。以前は、大日堂の西方にあった観音堂の本尊でしたが、建屋の老朽化により本尊を大日堂に安置しました。一本造りで内刳は施されていません。像高228cmと胸、腹、腰はボリュームもあり堂々とした立像です。秦野市内最大、かつ最古の仏像です。かつては東国の観音めぐりの百番目の結願の観音さんとしてにぎわっていたようです。秦野市の重要文化財に指定されています。



茶湯殿(閻魔堂)(地蔵堂)

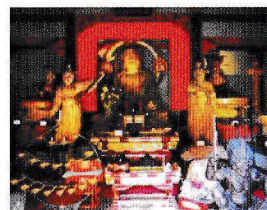
茶湯殿は閻魔堂、地蔵堂、十王堂とも呼ばれていて、百一日目の茶湯供養を行う場所として、宗派に関係なく多くの方々に利用されています。堂内に鎮座した木彫りの地蔵様は、その大きさも迫力十分であり貴重な文化財となっています。

十王像群

ここ茶湯殿には東日本でも類を見ない十王思想による冥界の仏像群があります。閻魔堂の中心に地蔵菩薩、左右には一般に知られている閻魔大王含め10体の大王をはじめ、三途の川に待つ奪衣婆、鬼卒、生前の行為を記録している俱生神、浄瑠璃の鏡、人頭杖(檀拏幢)などが往年の姿をとどめています。現在堂内には十一体の仏像が修復され見応え十分です。

この十王像群は、全て秦野市の重要文化財に指定されています。

- | | 全高 |
|----------|--------------------------|
| ・地蔵菩薩 | 216 cm |
| ・十王像 10体 | 95.3~119 cm |
| ・奪衣婆 | 79.8 cm |
| ・俱生神 | 右 169.3 cm
左 169.6 cm |
| ・鬼卒 | 63.4 cm |
| ・檀拏幢 | 右 169 cm
左 173.5 cm |
| ・浄瑠璃鏡 | 114 cm |



光西上人入寂の地

江戸時代の中期、享保年間(1716~1735年)に、西日本一帯の飢饉のため日本全体が危機に瀕していたため、木食僧として修行を積んだ光西上人(茶湯殿庵主)が仏教により民衆を救済しようと東海、関東一帯を行脚し、大般若経600巻の願主となって浄財を集め、大日堂などの建物や内部の仏像群の修復を果たした後、この地に石室を造り、生き仏として入寂をし、事業の終焉としました。



仁王門

江戸時代後期、19世紀前半に建てられたもので、屋根の棟には「葵の御紋」が飾られています。内部には大日堂を守護する役割を負った二王像を祀っています。

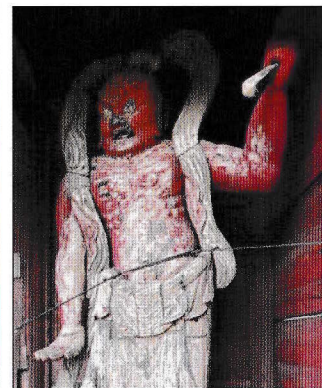
二王像

平成18年・20年の調査により、製作時期は平安期・西暦1100年中頃と推察されています。東日本で最古級の二王像の一つです。洗練度の高い作風は、単なる地方作ではなく、中央(京都)の影響が見え、京の仏師か、京の影響を受けた仏師の作と考えられます。平安朝後期・藤原期に遡る作例として、その本格的造頭とともに存在は極めて重要です。秦野市指定重要文化財。



昨形像「密綽迹金剛像」
(みっしやくこんごうぞう)

全高 270 cm



阿形像「那羅延金剛像」
(ならえんこんごうぞう)

全高 268 cm

不動堂

江戸時代、17世紀末に建てられたもので、境内に現存する堂宇の中では、最も古い建物です。

不動明王像

かつて、五大尊(五人の明王)が祭られていましたが、現存は不動明王のみです。五大尊縁起によれば秦川勝によって祭られたインド伝来の不動明王と言われています。現存する破損仏により、ここに五大尊があったことが裏付けられています。

